

やさしい昆虫講座 43

「何処で冬を越そうか？-1」

木村 裕

寒くなってきました。虫さんたちは何処で冬を越すのでしょうか？ 夏にせっせと汗水を流して働いていたアリさんは地中深くのマンションでくつろぎ蓄えた食料で一家団欒をおくっていることでしょう。一方楽器片手に大騒ぎをしていたキリギリスさんは住む家も食料もなく寒さに震えながらお亡くなりになりました。しかし心配はいりません。秋末にお母さんは地中に卵をすでに産み落としてその子孫はきちんと残しており、翌年の春には子供達がどっさりこと孵ってきます。トノサマバッタやオンブバッタも同じように地中に卵を残します。キリギリスに姿がよく似たクダマキモドキは大工の素養があるようで、木の細い枝を縦に裂いてその隙間に卵を産みこみます。



ならやまのカブトムシの子供さんは積み上げられた堆肥の山の中、その堆肥の発酵熱を利用した暖かい部屋で、周りを美味しい食料に囲まれて優雅な生活をおくっています。同じ仲間のカナブンさんやコガネムシさんは堆肥の中よりも植物の根が豊富な土の中が好きなので、生きている植物

の根もかじりますので農家のおじさんには嫌われます。土の中は堆肥のような発酵熱が少ないので、寒くなるとより深く潜って地中のマグマの恩恵をうけるようにします。



今、ならやまでコナラの幹から染み出る樹液に集まっているスズメバチさんのほとんどは寒さがくると死んでしまいます。しかし秋に成長したお母さん蜂のみは、木の洞、建物の隙間など、寒い北風を遮ってくれる場所で寒さにじっと耐え、暖かい春がやってくるまで頑張ります。この生き残ったハチが新しい女王蜂となり、新たな一步を踏み出します。

軒下、植木棚の下、込み合った木の枝など雨の当たりにくい場所で巣作りするアシナガバチ類も同じようにメスの蜂が生き残って翌年の発生源になります。我が家のアシナガバチさんを観察していると、春～夏にかけて巣は日に日に大きくなりハチの数も増えてきましたが、9月になると巣を離れて軒下に集まってきました。数から判断すると複数の巣から遣ってきたようで、10月になると何処かへ移動し、姿が見られなくなりました。行き先は不明でしたが、翌春にはメス蜂が軒下に新たに小さな巣を作り始めました。最初は1室のみでしたが、徐々に部屋の数は増え、各巣の奥には白い卵が1個ずつ産みこまれていました。

